

大学評価学会 第25回研究会のご案内

学会主催の研究会を下記のとおり8月30日に実施いたします。それぞれ時間・内容・連絡先は下記のとおりとなります。終日参加はもちろんのこと、午前・午後のいずれかのみ参加も大歓迎です。

- ◎ 日 時：2008年8月30日（土）
- ◎ 場 所：キャンパスプラザ京都2階 第2会議室（JR京都駅北西、京都中央郵便局西側）
- ◎ 参加料：無料（但し、終了後の懇親会は有料）

研究会1（10:30～12:00）

* 龍谷大学国際社会文化研究所・指定研究（細川グループ）との共催。

- ◇ テーマ：「PDCAサイクルと大学評価」
- ◇ 報告者：平井孝治氏（元立命館大学教授）
- ◇ 連絡先：細川孝（大学評価学会事務局、龍谷大学経営学部）
e-mail：hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp

研究会2（13:30～17:00）

- ◇ テーマ：「あらためて、大学職員の専門性を問う」【シンポジウム形式】
- ◇ 報告者
 - 田村幸男氏（関西外国語大学事務局長、前国立大学法人山形大学理事（財務、EM担当））
 - 塩野博雄氏（立教大学職員）
 - 楯 一也氏（名城大学職員、名古屋大学大学院生）
- ◇ 連絡先：村上孝弘（大学評価学会、担当理事。龍谷大学 図書館事務局）
e-mail：mkami@ad.ryukoku.ac.jp

現在、大学改革の時代において、大学職員は国・公・私を問わずその存在価値が再認識され、その役割が再構築されようとしている。このような大学職員への新たな役割や位置づけへの期待は、それが大学改革の動きと連動していることもあり、これまでになく大きなまた急速な変化を大学職員の現場に招来している。

大学職員の役割や位置づけが重要視されることは、大学職員全体にとってはその地位の向上を果たすことであり、これを否定することをなすものではない。しかし、大学改革と連動した大学職員論の台頭は、トップマネジメントに限定した特定の幹部職員層のみの権限の集中と地位の向上を述べているものもあり、大学職員の全体としての成長や発展の観点が語られることが少なくなったことも事実である。

今回、これまでの研究会のひとつの区切りとして、「あらためて、職員の専門性を問う」というテーマを設定した。これまでの大学職員は、ジェネラリスト養成が主体であり、専門性ある職員の養成について論じられることは多くはなかった。しかし、大学改革の時代においては、職員の役割と位置づけを再考する一つの概念として「専門性」が再浮上している。この新たな「専門性」は従来のスペシャリストではなく、プロフェッショナルとしての「専門性」であるとも言われている。大学職員と専門性のあり方を検討することにより、まさに「あらためて大学職員の役割を問う」契機となることを期待したい。